



屋久島1993

作品集

八田 康弘



このブックについて

1978年単独で臨んだ屋久島、大雨にあって
遭難、営林署の方達に助けられた苦い体験
から15年後グループで入山し、縄文杉に到
達しました。当時はまだ直に木肌にさわれ
る状況でした。今は足下にも近づけませ
ん。プロペラ機のYS-11も現役でした。

屋久島1993

八田康弘



ルート



YS-11 2006年退役

屋久島への航路



朝日

八田康弘



口永良部島



栗生沿岸



ウミガメ上陸



ゲンバイヒルガオ



ボタンボウフウ 七五岳



大川の滝



布引滝

© 八田 康弘



白谷雲水峡

© 八田 康弘





三代杉

屋久杉

© 八田 康弘



屋久杉

© 八田 康弘



屋久杉

© 八田 康弘



翁杉 2010倒木

© 八田 康弘



翁杉

© 八田 康弘



ウイルソン株

© 八田 康弘



ウイルソン株

© 八田 康弘





縄文杉



霧島屋久国立公園

樹高 28m
樹径 30cm

縄文杉

© 八田 康弘





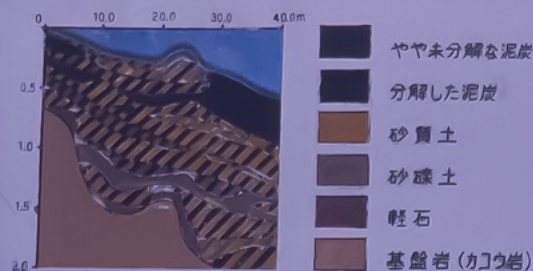
ニホンザル

最南の泥炭湿原

花え江河は、我国で最も南にある泥炭湿原です。泥炭は、ミズゴケやスゲ類の遺体が完全に分解（腐敗）することなく堆積した黒色の泥土で乾燥させると燃えます。

泥炭ができる条件は、寒い気候と木にうるおされる環境が必要で、泥炭湿原が北国に多いのはこの理由によるものです。

花え江河の地質断面は、1983年、相馬氏の調査で次の図のようであることがわかりました。



最も下層の泥炭を放射性炭素 C^{14} による年代測定をしたら、2600～2800年前にできたことが分りました。この頃から、屋久島の雨量が増え、繁茂したミズゴケなどの遺体は次第に堆積し、また、ある時は土砂が湿原に流入し、現在の花え江河湿原ができたと相馬氏は推定しています。



湿原の植物は踏みつけに大変弱く、枯れて裸地になったり、かわってイグサなどが生えてきます。

今の花え江河は踏跡植生であるイグサが大部分を占めていますが、早く以前の美しい湿原に戻るよう、木道から絶対におりないようにしましょう。

※この一帯は **下屋久営林署** が
管理する **国有林** です。

環境庁・鹿児島県

花之江河



花之江河



花之江河



ツマベニチョウ

© 八田 康弘





ツマベニチョウ1

© 八田 康弘

モンキアゲハ

© 八田 康弘



モンキアゲハ

© 八田 康弘



シコンノボタン

© 八田 康弘





ハナシュクシャ



ハシカンボク

ウラジロ

© 八田 康弘



キバナキョウチクトウ

© 八田 康弘







屋久島

HATTA YASUHIRO